

『Mind Charging』

第 96 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 8 月 26 日

織田信長の名言



臆病者の目には、敵は常に大軍に見える。

私たちがイメージする『型破り』や『強気』といった織田信長がいかにも言いそうな言葉だという印象です。そんな信長から直接言われたとしたら非常に厳しく、叱られているような気分になってしまうかもしれませんが、こうして文章として読み、この言葉を深く理解しようとすると、天下統一という大きな目標を立てた人物の中にある覚悟を感じます。

なぜなら天下統一は絶対に一人の力ではできません。大きな勢力を持つためにも自分の目標達成のために多くの人々の賛同を得る必要があります。そして、時代背景と天下統一の方法から『命懸け』であることから、どんなに度胸がある人でも自分が命を落とすことになるかもしれない恐怖感から、どうしても臆病になってしまうという心理状態も容易に想像がつかます。

この言葉をおそらく織田信長は家臣との話の中で使ったのだらうと推測します。そのシーンを私なりに想像すると、『自分は命を懸けて国を治める野望がある。達成すればあなたも幸せになることができる。ただ、この野望は簡単に達成できるものではない。日本中にいる天下人を目指す猛者たちが全員自分の首を狙っているんじゃないかと不安に陥ることもあるが、それに打ち勝ってこそ掲げた目標が達成できるということではないだろうか。一緒に頑張ろう！』という意味を込めて、自分自身にも言い聞かせるような気持ちで話したのではないのでしょうか。

私たちは生きていく中で様々な問題に遭遇し、その都度しっかりと対峙しながら乗り越えていかなければなりません。その場で解決するものもあれば時間がかかるものもあり、解決に至らないこともあると思います。難しければ難しいほど『乗り越えられないかもしれない・・・』という不安に陥ります。失敗を恐れ、“笑われるかも”というプレッシャーを感じることもあると思います。しかし、そういった不安の原因のほとんどは、実は自分の中にあるのかもしれない。『私なら達成できる！』と、自分に期待をしながら、信長に負けないくらいの強気さで立ち向かっていきたいものですね。(編集委員：入試広報室 鈴木)

織田 信長(おだ のぶなが、天文 3 年 5 月 12 日<1534 年 6 月 23 日> - 天正 10 年 6 月 2 日<1582 年 6 月 21 日>) は、日本の戦国時代から安土桃山時代にかけての武将、戦国大名。三英傑の一人。織田信長は、織田弾正忠家の当主・織田信秀の子に生まれ、尾張(愛知県西部)の一地方領主としてその生涯を歩み始めた。信長は織田弾正忠家の家督を継いだ後、尾張守護代の織田大和守家、織田伊勢守家を滅ぼすとともに、弟の織田信行を排除して、尾張一国の支配を徐々に固めていった。(Wikipedia 参照)